

ウィリアムズ%R

アメリカの著名なトレーダー、ラリーウィリアムズ考案のインジケーターです。一定期間の最高値を上限の0%、最安値を下限の-100%として表示し、その値幅の中に現在足の終値を位置づけます。-80%以上は買われ過ぎ、-20%以下は売られ過ぎと解釈します。相場の過熱感をモデリングするインジケーターで、主に逆張りエントリーに使用します。

ウィリアムズ%Rのプログラミングポイントは以下のとおりです。

- if文で分母が0でないことを真偽値で確認する。0除算によるエラーの防止
- if then else文を構築する

ここではソフトバンクグループ（9984）の日足でプログラムを適用してみましょう。



● ウィリアムズ%R

#5-6-4 ウィリアムズ%R

```
input: length(10);
variables: takane(0), bunshi(0), bunbo(0), perr(0);

takane = highest(high, length);
bunshi = close[0] - takane;
bunbo = takane - lowest(low, length);

if bunbo <> 0 then
    perr = bunshi / bunbo * 100
else
    perr = 0;

plot1(perr, "Williams%R", red);
plot2(-20, "-20", blue);
plot3(-80, "-80", blue);

if barstatus(1) = 2 then
    print(string.format("Date:{0} Time:{1} %R:{2:0.00}", date[0], time[0], perr));
```

一定期間の最高値

%Rの計算